

令和6年度 美作市立土居小学校 学校評価(内部評価・学校関係者評価)

A:目標を上回った B:目標をほぼ達成した C:目標を下回った

学校 教育 目標	指導の重点	具体的計画	キーワード	今年度の達成目標	自 己 評 価			取組と今後に向けて	学校関係者評価
					達 成 状 況	評価	総評		
夢をもち、未来を拓く土居っ子の育成	(1) 基礎・基本 の定着と 活用力向上 の指導	①「主体的・対話的で深い学び」の実現のために全員参加の授業づくりを工夫する。	単元計画 主体的学び	単元計画が児童と共有され、児童が見通しをもちながら主体的に学習している。	教職員アンケートにおける肯定的回答は100%と高く、年度途中より教職員が十分に共通理解し、共通実践していることが結果によく表れている。	A	B	○『言葉に関心をもち、読み取ったことをもとに自分の考えを進んで表現できる子どもの育成』をめざし、年間一人1回以上の公開授業を実施することができた。 ○授業改革推進員による授業観察とその後の指導・助言が日々の授業づくりや研究授業の充実につながった。 ○非認知能力の育成を意識した授業について、常に土居っ子パワーを合言葉に、児童に意識させながら授業実践を重ねた。11月の公開も充実した内容であった。 ●単元計画の児童との共有について、次年度も継続して取り組む。 ●理由や根拠のある説明をする力が十分身につけているとは言えないので、継続して取り組む。 ●非認知能力の育成を意識した授業について、次年度も作東区内で取り組みを継続することが決定している。	○授業参観から、児童の心が安定しており、自分の考えを恥ずかしがらずに言える雰囲気を感じる。 ○少人数ならではのていねいで受容的な指導が展開されている。個別の支援も十分できている。 ○教師の板書の文字が大変丁寧で美しい。 ○経営計画やめざす児童像に向かって、学校全体が一つになって進んでいることがよくわかる。 ○ICT活用が進んでいる。
			考え 理由 根拠 説明 対話的学び	児童が自分の考えをしっかりとち、根拠や理由を示しながら説明することができる。	児童アンケートでの肯定的回答は89%で、9割近くが、苦手としている児童も少なくないことが課題である。	B			
			意見交流 問い返し 話型・聞き方	児童相互の意見交流の機会を大切にし、互いにつながり、考えを広げ深める授業を展開している。	教職員アンケート「話し合い活動は、児童にとって意欲が生まれ、必要感のあるものとなっている」では、肯定的回答が71%であり、昨年度を下回る結果となった。	B			
			ふりかえり 深い学び	一時間一時間の学びがより深まり、さらに次の学びへとつながるように、授業におけるふりかえりを工夫している。	教職員アンケートにおける肯定的回答は88%と、昨年度よりも高くなっている。	B			
			非認知能力の育成	非認知能力の育成を意識した授業づくりに取り組み、計画に沿って協同実践を積み重ね、中学校区の公開授業において成果を確認する。	作東中学校区教育連携会では、3年間積み重ねてきたことを発表することができた。非認知を伸ばすギミックについて研究を深め、児童がより意欲的に学習に向かう活動についても考え、実践することができた。	A			
		②特別支援教育と生徒指導の視点をもった授業に取り組む。(自己肯定感と自己有用感が育まれることを重視)	支援計画 指導計画 個別最適な学び	児童一人一人の実態をふまえて適切な指導と支援を行うとともに、学級全体を規律ある集団として高めている。	週1回の職員終礼で、児童の様子を交流することにより、児童の実態や指導のありかたについて、全職員で共有することができている。個別の支援計画は、小グループで課題や成果を見取り、より適切な支援方法を考えることができた。	B	B	○個別の指導計画を作成し、全職員で共通理解して指導した。また、定期的な見直しもできた。 ○授業の中で相手を意識し、尊重しながら活動している。 ●次年度も個別の指導計画を立て、指導に活かす。	○●複式学級において算数の授業が単式で実施できる人員配置がありがたい。今後とも継続してほしい。 ●姿勢や鉛筆の持ち方など、基本的事項の指導が必要。 ●施設が老朽化しているためこまめな点検・整備が必要。
			自己肯定感 自己有用感 受容	学習規律が定着し、授業の中で互いを認め合い、自己肯定感と自己有用感を高めている。	教職員アンケート「児童が落ち着いて、集中して授業に取り組むことのできる環境を整えている」の肯定的回答は100%と高い値であった。	A			
		③基礎学力・基礎技能の定着を図る。	土居小タイム 学サポ 漢字計算検定	土居小タイム・主体的な学習の基盤づくり事取組を継続して行い、基礎基本の確実な習得につなげている。	教職員アンケートでは、肯定的回答が100%であった。	A	B	○漢字計算検定について、個々に合わせた支援をしながら、計画通りに実施できた。 ○基盤づくり事業について、児童の毎時間のふり返りによる確実な学び、担任と指導者の共通理解に努めた。 ●タブレットの長期休業中の持ち帰りが実施できたが、使用方法等の問題も生じているため、指導や家庭との連携が必要である。 ●土居小タイムについて、時間と内容の改善を図る。→提案・確認済 ●次年度はタブレットの毎日の持ち帰りを視野に入れる。	○●家庭学習の時間確保ができていた児童が昨年度より増加した。今後も家庭との連携を図る。 ○優れた自主学習ノートを見学し、児童の意欲と内容の向上につながった。 ○●毎週水曜日の土居っ子パワーデー(家庭学習の自己決定)の取組が児童のやる気につながった。今後も工夫しながら取組を継続する。
			タブレットドリル	デジタル教科書やタブレットドリルなど、日常的にタブレット端末を昨年度よりさらに効果的に活用し、長期休業中には家庭に持ち帰る。	長期休業中には、全学年でタブレットの持ち帰りを行った。タブレットLiveを活用し課題の配信、提出はできたが、動画やゲームを検索したり、夜遅くまで使用したりと、メディアコントロールの面で課題がみられた。	B			
		④家庭と連携して、家庭学習の習慣化をめざし、読書活動や自主学習を推進する。	家庭学習の手引き 家庭との連携	家庭学習の手引き・年間3回の家庭学習ががんばり週間を効果的に活用し、家庭と連携しながら各学年の家庭学習時間目標の達成と、内容の充実を図っている。	家庭学習の手引きを非認知能力と関連付けた。PTA総務学級部と連携を図りながら家庭学習ががんばり週間にも取り組むことができた。がんばり週間の回を重ねるたびに、学習時間の目標を達成できた人数も増えた。	B	B	○●家庭学習の時間確保ができていた児童が昨年度より増加した。今後も家庭との連携を図る。 ○優れた自主学習ノートを見学し、児童の意欲と内容の向上につながった。 ○●毎週水曜日の土居っ子パワーデー(家庭学習の自己決定)の取組が児童のやる気につながった。今後も工夫しながら取組を継続する。	
			ぐんぐん ノート	自主学習ノート(ぐんぐんノート)を積極的に活用し、学習の幅を広げ、深めている。	自主学習と非認知能力を結びつけたり、具体的な取組例を示したりした。各学級2週間ずつに分け、玄関前にノートのコピーを掲示し、一人一人のがんばりを紹介する場とした。掲示ノートを参考にし、学習の幅を広げた児童も多い。	B			
			読書活動 親子読書	学校における読書活動の推進はもとより、家庭と連携して親子読書に積極的に取り組む。	児童アンケートでは、86%の児童が肯定的な回答をしている。絵本給食や読書の集い、学校図書館来館システム(カード)などの取組により、読書活動を推進することができた。	B			

夢をもち、未来を拓く土居っ子の育成	(2)豊かな心とつながる力を育む指導	①一人一人の合学級集団づくりを土台として、信頼する心で問題解決に向かうたくましい心を育てる。	「くらしのやくそく」「六か条」	土居小学校の全ての児童がきまりを守って、笑顔で幸せに過ごすことができるよう、「くらしのやくそく」「六か条」を効果的に活用し、児童が主体的に活動することを意識しながら指導する。	なかよし人権集会で「六か条」の取組について全学級での実践を交流することができた。集会や行事等においても、「土居っ子パワー」と関連させて「六か条」の取組を具現化することができた。	A	A	○既存のもの(「六か条」等)を活用し繰り返し指導することが、児童の意識の高揚と定着につながっている。 ○帰りの会での「よいところみつめ」の活動が定着している。 12月の人権集会では縦割り班で実施し、見える化することにより個々の自己肯定感・自己有用感のさらなる向上につながった。 ○大きな行事において、個々がワークシートにめあてを記入し、中間と事後のふり返りにより、学びを自覚することで大きく成長した。 ○年間3回のあいさつ運動の取組では、各学級の工夫した標語や呼びかけ等児童の自主性を育てる活動となった。 ●児童一人一人の良さを認め具体的にほめて伸ばしていくことを今後も意識する。(全職員の共通理解) ●行事や諸活動における確実に具体的な目標設定とふり返り・成長の自覚をさせることにより、成功体験・感動体験を積ませることを継続する。 ●PTA(生活安全部)を巻き込んだあいさつ運動の取組を実施したい。	○子どもと先生との関係が良好である。優しいだけではなく、指導すべきことはきちんと指導している。 ○運動会、土居宿マラソン、学習発表会などの行事において、地域との連携が今年度さらに進んだ。児童の姿にも感動し一人一人の大きな成長を感じている。ワークシートの取組を今後も続けてほしい。 ○児童が地域について学ぶことはとても大切なことである。それによって地域も元気になる。 ●児童数が減少し、社会性の育ちが気になるところである。小小連携、小中連携の取組がますます必要になってくる。 ○●幼小交流は土居ならではの特色ある取組であるので発達段階に応じた明確なねらいをもちながら、今後も継続してほしい。
			集会活動 学校行事 学級活動	行事や集会、学級での活動の中で児童一人一人が認められたり、人の役に立ったりする機会を増やすことで、自己肯定感・自己有用感を育てる。	各委員会が主体となって運営する集会や児童集会において、児童一人一人が活躍する場を設定してきた。児童アンケート「活動・学校行事に進んで取り組んでいる」の項目において100%の児童が肯定的評価という高評価であった。	A			
				学校行事や諸活動において、常に目標(夢)をはっきり定め、自分の成長を自覚しながら活動し、成功体験や感動体験を味わうことができるようにする。	「運動会」「土居宿マラソン」「学習発表会」「平和集会」「日々の授業」等様々な教育活動において、「土居っ子パワー」と関連付けた目標を設定し、自他の成長を意識しながら活動していた。その活動の繰り返しが、自己肯定感・自己有用感の向上にもつながった。	A			
			あいさつ運動 家庭との連携	家庭や地域と連携し、あいさつ運動やその他の取組を通して気持ちのいいあいさつを推進し、望ましいあいさつが進んで実践できる児童を育てる。	昨年度までのあいさつ標語の取組に加え、児童が主体的に取り組む「あいさつ運動」を1・2学期に実施した。学級ごとにアイデアを出し、じゃんけんやカードなど、工夫したあいさつ運動に楽しみながら取り組むことができ、効果が上がった。アイデアを出し合うことで、企画力運営力も育った。	A			
			縦割り集団 異学年交流 リーダー	縦割り班活動を年間通して計画的に実施し、それぞれの立場で活動に主体的に取り組むことができる。6年生はリーダー、5年生はサブリーダーとして企画運営に積極的にかかわることができる。	「縦割りそうじ」「縦割り遊び」を計画的に実施し、6年生はリーダー、5年生はサブリーダーとして積極的に活躍することができた。特に運動会の「応援合戦」では、その企画運営を1学期から計画的に行い、「下学年にやさしく」という「六か条」をモットーに、リーダー性を発揮することができた。	B			
		②「ふるさと学習」において地域の人材や環境を積極的に活用する。	生活科 総合的な学習 ふるさと学習	各学年の年間計画に基づいた「ふるさと学習」において、地域の方と積極的にふれあい、関わりながら、主体的に課題を解決することができる。	各学級において、地域の方と積極的にふれあい、関わる活動を実施することができた。これまでの内容にさらに工夫を加え、質の高い学びとなった。また、運動会・土居宿マラソンでの地域種目の実施、土居宿マラソンでの地域の愛育栄養委員の方による児童への軽食(おにぎり弁当)提供等、地域とのつながりを、より一層深めることができた。	A	A	○さまざまな活動において、地域の方が児童との交流を楽しみにし、心から喜んでくださっていることが感じられ、ありがたい限りである。 ●地域人材・学習材の発掘が課題 ○地域の方への感謝の思いを言葉や態度できちんと伝えることを継続して指導し、児童の地域やふるさとを大切に思う意識が高まっている。 ○学習発表会において地域学習について発信することができた。 ●感謝の気持ちをもち、それをきちんと伝えることを今後も継続して指導する。(あたりまえのありがたさ)	
			③地域に発信・貢献できる地域交流を行う。	生活科 総合的な学習 感謝の会	地域と関わる学習での学びを発信したり、地域の方へ感謝の思いを伝えたりする活動を通して、ふるさとの人や環境・文化等のよさを感じ、ふるさとを大切に思うことができる。	ふるさと学習や学校行事等を通して、地域の方へ感謝の気持ちを持ち、その思いを伝えたり、ふるさとの環境や文化、人等のよさを感じたりすることができた。2年生と56年生は学びの成果を学習発表会で発信し、学びがより深まるとともに、地域の方が学校教育に理解を深めることにも、大いにつながった。	A		A
				④中学校区を中心とした保幼小接続と小中連携小中連携の充実を図る。	幼小 接続授業	幼小接続授業を通して、児童が各学年のねらいを達成し、自己肯定感や自己有用感を高めることができる。	計画通りに実施できた。実施前の打ち合わせ、実施後の反省を確実に実施できた。		B
		小中 連携授業	小中連携授業を通して、6年生が中学校での学習や生活に不安に思うことなく安心感や期待感をもって入学を迎えることができる。		中学校の都合で計画通りの回数は実施できなかったが、実施の目的は達成できた。	B			
		中学校区 教育連携会	作東中学校区教育連携会の活動に積極的に参加し、本校の取組を発信したり、研修したことを積極的に本校の取組に取り入れたりすることができる。		江見小学校の公開授業に1名参加し、学校間で連携できた。作東中学校区教育連携公開授業では、本校の取組を掲示し、積極的に発信することができた。授業改善学力向上部会では、3校の学力調査の結果や校内研修の取組を交流し、本校の実践に活かした。	A			

夢をもち、未来を拓く土居っ子の育成	(3) 命と生き方を大切に する指導	①一年間を見通した体力づくりを行う。	岡山っ子運動習慣カード マイベストチャレンジ	岡山っ子運動習慣カード、マイベストチャレンジ等に積極的に取り組み、体を動かし、外で元気に遊ぶことが習慣となっている。	休み時間には外で元気に遊ぶ児童が多く、体力や運動習慣の向上につながっている。 運動習慣カードの期間でないときも児童同士で声を掛け合って遊んでいる。児童アンケート「外遊びができるようになった」と答えた児童の割合が昨年度より増加している。	A	B	○体を動かす機会を増やすために、ボールを新調したり、空気入れを使いやすく設置したりした結果が体力の向上につながった。	●保護者の考え方が多様化しているが、児童を中心に据えて考えることが大切。PTAの意義を確認しながら、少人数に合った形での活動・組織再編を考えてほしい。幅広く意見を聞き、合意形成を進めていくことが必要である。		
			業間マラソン	土居宿マラソンを目標に業間マラソンに積極的に取り組み、本番当日には練習の成果を生かし、最後まであきらめないで走りきることができる。	全児童が自分の目標をもってマラソン運動に取り組むことができた。	B					
		②生活安全・交通安全・災害安全を身に付ける授業や避難訓練の充実を図る。	避難訓練 交通安全教室	避難訓練・交通安全教室・通学班会などの安全に関する学習に意欲的に取り組み、安全に生活するために必要な事柄を身に付けることができる。自他の生命を尊重したりすることができる。	避難訓練・交通安全教室に真剣に取り組むことができ、安全について考えさせることができた。通学班会で話をして安全な通学ができた。保護者アンケート「安全・事故防止」肯定的回答 100%（アンケート回収率 69%）であった。	A	A	○避難訓練の提案時には、毎回状況や具体的な動き等について職員間で共有でき、危機感をもって訓練ができた。特に、不審者対応の訓練では外部から講師を招聘したことや事前に不審者対応職員研修を実施したことで、より充実したものとなった。 ●今後は、想定をかえた訓練、予告なしの訓練等も計画的に実施する。			
			③自らの命を大切に する生活習慣を 獲得する。	歯みがき指導	外部講師による歯みがき指導により、正しい歯みがきの習慣を身に付け、実践することができる。	歯科衛生士と連携した歯みがき指導が実施でき、実践につながった。		A		B	○計画した内容については、ほぼ予定通りに実施することができた。 ○●スクールカウンセラーによる心の授業を中・高学年で実施することができた。それぞれの発達段階に応じた内容であり、事前の打ち合わせと事後の振り返りにより充実したものになった。今後もスクールカウンセラーとの連携を図る。 ●メディアコントロールについては、アンケートでは肯定的回答率が高くなっているが、コントロールできていない実態がある。継続した指導と家庭への啓発・家庭との連携が必要である。
				病気の理解	さまざまな病気についての正しい理解を深める。	今年は、様々な感染症が流行したが、保健だより等で理解を深めた。		B			
				性に関する教育 LGBTQ	年間計画に基づき、各学年の発達段階に応じた性に関する学習に取り組み、体の成長についての正しい知識と意識をもつ。また、LGBTQについても、正しく理解する。	年間計画に基づき、各教科と関連した指導を実施し、体の成長について理解させることができた。 LGBTQについても、年間計画に入れて実施できた。		A			
		情報モラル メディアコントロール		情報モラルの必要性について学習し、身に付けることを通して、望ましい情報社会の創造に参画しようとする。	児童アンケート「メディアの約束を守る」肯定的回答 86% 保護者アンケート「メディアのルールがある」肯定的回答 92%（アンケート回収率 69%）となっている。	B					
		④生活に根ざした道徳教育と人権教育の推進を行う。	なかよし集会 人権週間	発達段階に応じて、基本的人権についての正しい理解を深め、豊かな人権意識が育っている。また日常生活において相手を大切に思う行動が実践できている。	なかよし人権集会では、朝の会で毎日練習を重ねてきた歌（すてきなともだち）を全校で合唱した。 人権標語（全学年）、人権ポスター（1・34年）人権作文（56年）の取組を行い、互いに交流し合うこともできた。 人権旬間の期間のみでなく、縦割り遊び、平和学習、道徳授業等において、基本的人権について理解を深めることができる。	A	B	○道徳教育については、道徳教育推進教師を中心に、どの学級においても計画的に授業を実施し、保護者と学びのあしあとを共有したり、授業を参観していただいたりすることができた。 ○平和学習に学校全体で取り組み、児童に人権意識・人権感覚を育てることができた。 ○人権の花運動については低学年が種まき・世話を担当し、花鉢（プランター）の郵便局・地区センター等への贈呈により、地域とのつながりを深めることもできた。 ●今後も道徳教育・人権教育の取組やその成果を家庭と十分に共有する。 ●人権の花活動・平和教育に、来年も取り組む。 ●来年度も講師を招聘して人権講演会を実施し、多くの保護者にとって学びの多い研修となるようにする。			
			保護者への授業公開	年1回は保護者対象に道徳の授業を公開して取組の様子を伝えたり、道徳教科書・ノートを家庭に持ち帰らせたりすることにより、家庭と価値を共有している。	人権参観日には、全学級道徳の授業を保護者に公開できた。道徳のノートを学期に一度持ち帰りを行い、保護者にコメントを記入してもらうことも継続してできている。	B					
			PTA 人権講演会	人権参観日当日、保護者を対象に人権講演会を実施し、家庭と学校とが連携しながら、子どもを育んでいくという思いをもつことができるようにする。	人権参観日当日に人権講演会を実施した。今年は、食育や人権、平和等をテーマにした内容で、保護者に大変好評だった。毎年同一のテーマが続くことがないよう、講師を選定していくことが今後も必要である。	B					